

# 教科目標

## 看護学科

### 1. 養成目的

多職種と連携し、地域・保健・医療・福祉など、広く社会のニーズに対応できる看護実践者を養成する。

### 2. 教育目標

- 1) 人権を尊重し価値観を認め、良い人間関係を構築できる。
- 2) 科学的思考と倫理的思考を基盤に、対象の立場に立った倫理に基づく看護を実践する基礎的能力を養うことができる。
- 3) 対象のQOL向上を目指し、健康な暮らしを支援することができる。
- 4) 地域・保健・医療・福祉におけるチームの一員として、多職種と連携・協働することや、環境を整えることができる。
- 5) 国際的視野を持ち、看護の向上と発展、自身のキャリアアップを意識し継続して学び続ける力を身に付けることができる。

### 3. カリキュラム

教育内容		科目	総時間数 (総単位数)
モチベーション プログラム	基礎分野	人間と哲学 / 看護物理学 / 教育学 / 文章表現総論 / 情報リテラシーⅠⅡⅢ / 心理学概論(カウンセリング含む) / 発達心理学 / 医療・看護の社会学 / 英語ⅠⅡⅢ / 人間関係論Ⅰ(コミュニケーション論) / 人間関係論Ⅱ(マナー・ホスピタリティ) / 人間関係論Ⅲ(手話)	315 (16)
ミッション プログラム	専門基礎 分野	解剖生理学ⅠⅡⅢ / 形態機能学 / 生化学 / 臨床栄養学 / 臨床薬理学ⅠⅡ / 病理学 / 病原微生物学 / 病態学Ⅰ(臨床検査)(放射線診療)(麻酔学) / 病態学Ⅱ(皮膚)(眼)(耳鼻咽喉)(歯・口腔) / 病態学Ⅲ(呼吸器)(循環器)(血液・造血器、免疫) / 病態学Ⅳ(消化器)(内分泌・糖代謝) / 病態学Ⅴ(運動器)(リハビリテーション)(脳神経) / 病態学Ⅵ(腎・泌尿器)(女性生殖器) / 社会福祉 / 公衆衛生 / 関係法規 / 医療と倫理	510 (22)
プロフェッショナル プログラム	専門分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基礎看護学：看護学概論 / 看護研究ⅠⅡ / 生活援助論ⅠⅡⅢ / 共通基本技術 / 人間関係成立の技術 / 診療過程援助論 / 看護過程 / ヘルスアセスメント / 臨床看護総論</li> <li>■地域・在宅看護論：概論ⅠⅡ / 方法論ⅠⅡⅢⅣ</li> <li>■成人看護学：概論 / 方法論ⅠⅡⅢⅣⅤ</li> <li>■老年看護学：概論ⅠⅡ / 方法論ⅠⅡ</li> <li>■小児看護学：概論ⅠⅡ / 方法論ⅠⅡ</li> <li>■母性看護学：概論ⅠⅡ / 方法論ⅠⅡ</li> <li>■精神看護学：概論ⅠⅡ / 方法論ⅠⅡ</li> <li>■看護の統合と実践：看護マネジメント / 医療安全 / 国際看護・災害看護 / 技術統合(多職種連携含む)</li> </ul>	1200 (45)
	臨地実習	基礎看護学実習ⅠⅡ / 地域・在宅看護論実習 / 成人看護学実習ⅠⅡⅢ / 老年看護学実習ⅠⅡ / 小児看護学実習 / 母性看護学実習 / 精神看護学実習 / 看護の統合と実践実習	1035 (23)
合計			3060 (106)

※ 各学年次取得上限単位数：1年次42単位 / 2年次43単位 / 3年次21単位

#### 4. 学年（学期）目標

学年	到達目標
1年 (前期)	看護の対象である人間の身体機能と発達・心理的側面を理解するとともに、生きていく人の支援に必要な日常生活援助の基本を習得する。
1年 (後期)	科学的思考の基盤となる専門基礎分野を通して、看護の問題解決につながる思考を養う。臨地実習を通して日常生活支援の実際を経験し、看護の基本を習得する。
2年 (前期)	専門基礎分野を更に深め、各看護学の対象に必要な知識・技術を習得し看護実践力を養う。看護師の役割を理解するとともに、戴帽式を通して自身の目標を明確にする。
2年 (後期)	臨地実習の実践を通して、知識・技術・態度を培う。
3年 (前期)	臨地実習の実践を通して、対象に応じた看護が実践できるよう、様々なケースから知識・技術・態度を培う。
3年 (後期)	看護の統合と実践実習における対象の看護を深め、夜間・複数受け持ちにより看護業務の理解を行う。また、事例研究により自身の看護を振り返り、看護観をまとめるとともにプレゼンテーション方法を身に付ける。

#### 5. 取得目標資格

資格名	必・選	認定団体	認定方法
看護師	必修	厚生労働省	養成施設卒業（卒業見込）、 国家試験受験
ICLS	必修	日本救急医学会	指定科目履修、試験受験
上級救命講習	必修	東京消防庁	講習会
コミュニケーションスキルアップ 検定	必修	滋慶教育科学研究所	筆記試験

#### 6. 就職分野

就職分野	職種	核能力
総合病院、大学病院、民間病院	看護師	コミュニケーション能力、観察力、洞察力、専門職としての知識・技術・判断能力
訪問看護ステーション		
介護老人保健・福祉施設		
企業の健康管理室		
幼稚園、保育園		